

大震災に立ち向かう

[2011-2016]

2011（平成23）年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生します。震度6弱の激しい揺れの後、最大6.7mの津波が北茨城市を襲いました。この震災では、死者5名、行方不明者1名、関連死者5名の尊い生命が失われ、全半壊2,660戸、一部損壊6,059戸という家屋の被害をはじめ、港湾、道路、学校などの施設や六角堂、二ツ島などの観光資源にも大きな被害をもたらしました。翌12日に発生した福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の問題は、災害の影響をさらに複雑なものにしました。

この未曾有の大災害から、「元気！北茨城」を合言葉に市民が一体となった復興への歩みを始めて5年が経過し、北茨城市は60周年を迎えました。

この間、復興事業や原発事故の風評被害対策とともに、これからの未来につながる取り組みも着実に進められてきました。そのキーワードは「ひとの健康」「まちの健康」です。この両面から「健康都市づくり」を実現することこそ、住み慣れた地で健やかに安心して生活できる「新しい北茨城市」の創生につながっていくものです。

[平成] 23年 → 28年



太平洋沖で発生した地震による津波は、市内沿岸部に大きな爪あとを残した（大津港周辺、平成23年）



引き波が渦を巻く仁井田浜



高波が港を越え、流される漁船



津波が引いた後の国道6号磯原駅入口付近



津波は国道6号とその周辺まで押し寄せ、街並みを一変させた（二ツ島陸橋から）



震災発生当日、避難した市民は不安な一夜を過ごした（北茨城市役所）



津波に襲われ、家具や車などが折り重なった住宅地（平潟町）



岸壁に打ち上げられた漁船（大津町）



1階天井まで津波に飲まれた大津漁協。時計の針は震災発生時刻で止まった



地震でゆがんだJR常磐線の線路



津波により流失した六角堂



折れて使用不能となった大津の灯台



磯原町沿岸部の避難所となった市民体育館。避難所数は一時20カ所にまで拡大し、最大で5,100人が身を寄せた



被害のお見舞いのためご来市された天皇、皇后両陛下



福島県側から県内に入る避難者のスクリーニングテストをする職員ら（歴史民俗資料館）



震災後の対応を進めた災害対策本部会議



食料品や生活用品などの支援物資を手渡すボランティア（大津町）



被災して間もない3月末、大津小学校で卒業式が行われた（平成23年）



磯原駅西口に設置された放射能対策プラザ。放射線測定器の貸し出しを始めた（平成23年）



クリスマス期間中、大津漁港で行われたパトゥ・ノエル。「希望の船出」をイメージして、ライトアップされた漁船が夕闇の港を彩った（平成23年）



市と市観光協会が宇都宮市の商店街にアンテナショップを出店（平成23年）



北茨城市水産業復興委員会が発足した（平成24年）



北茨城市の復興支援にかかる4者による包括的提携協定が結ばれた（平成24年）



震災復興計画策定委員会から復興計画案が答申された。この計画をもとに、復興のまちづくりが始まる（平成24年）

北茨城市復興事業計画（平成28年2月）



65団体と災害時相互応援協定を締結。震災を契機に自治体や各種団体との協力体制づくりが進められている（平成25年）



津波で流失した六角堂が茨城大学によって再建され、一般公開が始まった（平成24年）



震災復興支援展覧会「生誕110周年記念 ウォルト・ディズニー展」が、県天心記念五浦美術館で開幕。52日間の入場者は約11万人を超えた（平成24年）



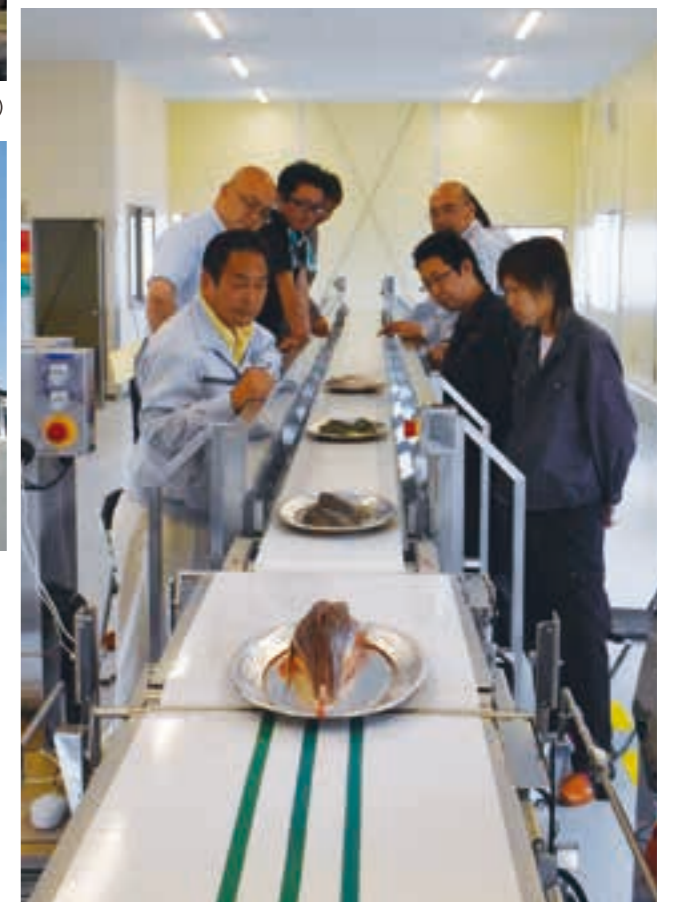
情報を市民に伝える防災行政無線の整備が進められた（平成25年）



震災発生から約2年ぶりに大津町でシラス漁が再開（平成25年）



津波で被害を受けていた市漁業歴史資料館「よう・そろー」がリニューアルオープン（平成25年）



大津漁港内に非破壊放射能測定施設が完成した（平成26年）



大津町の高台に設けられた展望慰霊塔の前で、祈りの碑を除幕する子どもたち (平成26年)



復興を願い震災後初の御船祭が開催された (平成26年)



JR常磐線磯原駅に北茨城市観光案内所を開設 (平成27年)



築地市場まつり「鍋グランプリ」で、あんこう鍋がグランプリ(平成26年)



廃棄物の減量と資源化の促進により環境保全を図る「廃棄物と環境を考える協議会」が発足 (平成25年)



市民病院

平成26年11月に開院した市民病院は、県北部の中核病院として市民の生命と健康を守り、医療の質的向上の推進と地域に即した医療を提供しています。

家庭医療センター

平成27年6月に開所した家庭医療センターは、地域医療を推進するモデル診療所として在宅医療の実践並びに総合診療専門医および家庭医の教育施設としての役割を担っています。



テニスコート

平成31年に開催される“いきいき茨城ゆめ国体ソフトテニス競技会”に向けて16面のテニスコートを整備します。国体後も、数多くの大会誘致や健康増進事業を積極的に行い、北茨城市のスポーツ拠点として活用していきます。

ひとの健康

安心できる暮らしを全力サポート

北茨城市民病院と附属家庭医療センターが核となり、「保健・医療・福祉サービス」を包括的に提供する体制づくりを進めます。子どもから高齢者まで、誰もが健やかに、安心して生活できるよう、さまざまな機関や専門家が連携する仕組みにより、市民の生命と健康を守るための施策に最優先で取り組みます。



まちの健康

充実した生活基盤で豊かな毎日を

人が集い、人を育むのは「まち」です。人口減少という大きな課題に直面する中で、まちを元気にするための地域活性化策に知恵を絞り、道路や施設などのインフラ整備を進めていく必要があります。地方創生に欠かせないのは、まちの活力。豊かな自然環境を守りながら、未来につながる新しい北茨城を目指します。



国道6号勿来バイパス

平成27年度に事業化が決定した国道6号勿来バイパスは、渋滞緩和や事故防止のほか、地域医療や観光面での連携、災害時の避難や救援活動にも大きな効果が期待されています。

消防庁舎

消防本部は平成28年2月に高台の新庁舎に移転。消防署と北部分署が統合して体制が強化されました。また、市の中心部に位置することで各所への迅速な出動が確保されています。



関本小中学校

小中学校の統合・再編により、義務教育の9年間を見通し継続的で一貫性のある教育活動を行い、児童生徒の個性や能力を伸ばす教育を目的とした関本小中学校（通称）が平成28年4月に開校します。



市立図書館

平成28年6月開館予定。野口雨情の「シャボン玉」をイメージした開放的な館内に、カフェを併設。開館時の蔵書数は15万冊（収納能力21万冊）、CD・DVD2,000点となります。屋上は災害時の一時避難所としても機能します。



平成23年	3月	東日本大震災発生。震度6弱の激しい揺れと津波により、未曾有の大災害をもたらす
	4月	天皇、皇后両陛下がご来市。震災被害のご視察と避難者を見舞われる
	5月	「きたいばらき元気市」がサッカー・ラグビー場で開催される
	6月	市長選挙執行、豊田稔市長が再選
	12月	磯原駅西に放射能対策プラザ開設。放射線量測定器の貸し出しと食品の放射能測定を開始
平成24年	2月	北茨城市復興計画策定委員会が復興計画案と提言書を市長に答申
	4月	五浦六角堂が茨城大学により再建され、4月28日から一般公開が再開される 震災記録写真集「明日を信じて 元気! 北茨城」を発行
	5月	北茨城市水産業復興委員会が発足
	7月	大津港駅前に観光案内所「びすとれ」開設
	8月	震災復興支援展覧会「生誕110周年ウォルト・ディズニー展」が県天心記念五浦美術館で開催
平成25年	10月	映画「天心」を支援する会が発足
	3月	防災行政無線（51カ所）設置完了 北茨城市のイメージキャラクターが決定
	4月	高速バス北茨城インター停留所経由運行開始 磯原駅前交番運用開始
	7月	廃棄物と環境を考える協議会加盟団体（1都5県65市町村）と災害時相互応援協定締結 漁業歴史資料館「よう・そろー」リニューアルオープン
	11月	PR動画「恋するフォーチュンクッキー北茨城バージョン」制作・公開
平成26年	3月	防災メール配信サービス開始 「杉良太郎&仲間の皆さんによる復興支援チャリティーコンサート」開催 五浦岬公園展望慰霊塔完成 平潟、大津、中郷の災害公営住宅入居開始
	5月	常陸大津の御船祭。東日本大震災後、復興を祈願して初の開催
	6月	大津漁港内に非破壊放射能検査施設が完成
	10月	第1回全国あんこうサミット開催
	11月	北茨城市民病院が開院 築地市場鍋グランプリで、北茨城のあんこう鍋がグランプリを獲得
平成27年	3月	磯原駅に「北茨城観光案内所」開所
	4月	2019茨城国体準備委員会が発足
	5月	市長選挙執行、豊田稔市長が再選
	6月	市民病院附属家庭医療センターが中郷町に完成し診療開始
	7月	市制60周年記念プレミアム商品券販売開始
平成28年	10月	マイナンバー制度がスタート
	2月	北茨城市消防本部、消防署が新庁舎へ移転
	3月	市制施行60周年記念式典挙行